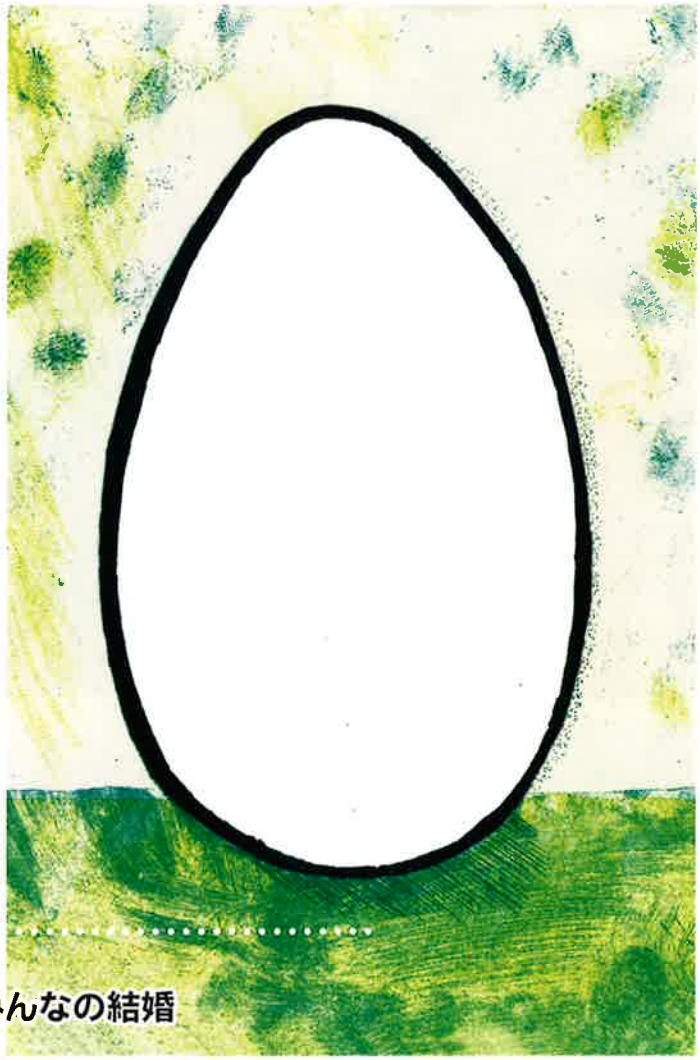
ありーて

高岡市男女平等推進プラン情報誌
13 号 2003年3月



もくじ

わたしの結婚・みんなの結婚
ありーて編集員がおじゃまします
セピア色の写真から
こんにちは 女性行政室です

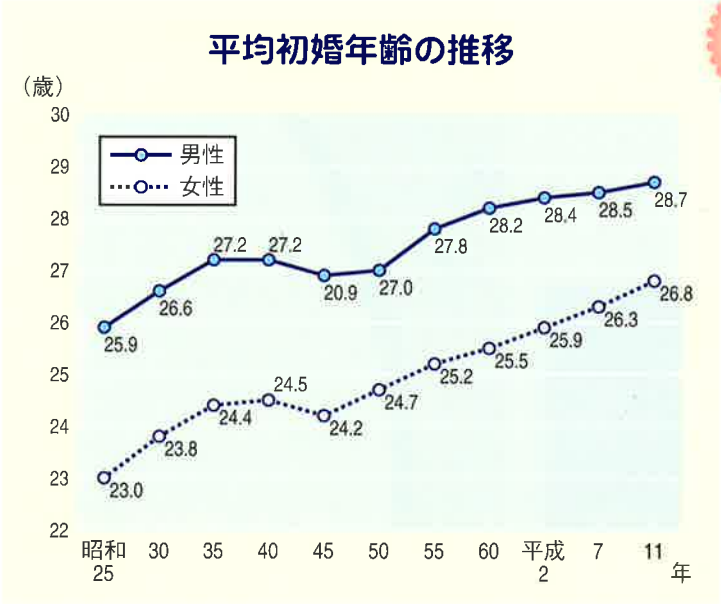
わたしの結婚 みんなの結婚

結婚は男性にとっても女性にとっても、人生においてのターニングポイントであるというイメージがあります。女性の社会への進出や、個人の価値観の多様化が進む中で、最近、「未婚化」「晩婚化」「少子化」ということばをよく耳にします。

これまでの結婚の形を大切にしていきたいと思っている人たちがいる一方で、別居婚・事実婚といった結婚のスタイルを選択する人が増え、また、結婚観が変化してきていると言われています。

今回、ありーてでは「結婚」にスポットをあて、結婚や結婚生活に関するデータ・グラフをもとに、皆さんに意見や感想をいただきました。また、未婚の方の結婚に対するイメージ、既婚の方の実際の生活についてもお聞きしました。

晩婚化が進んでいるのは本当？



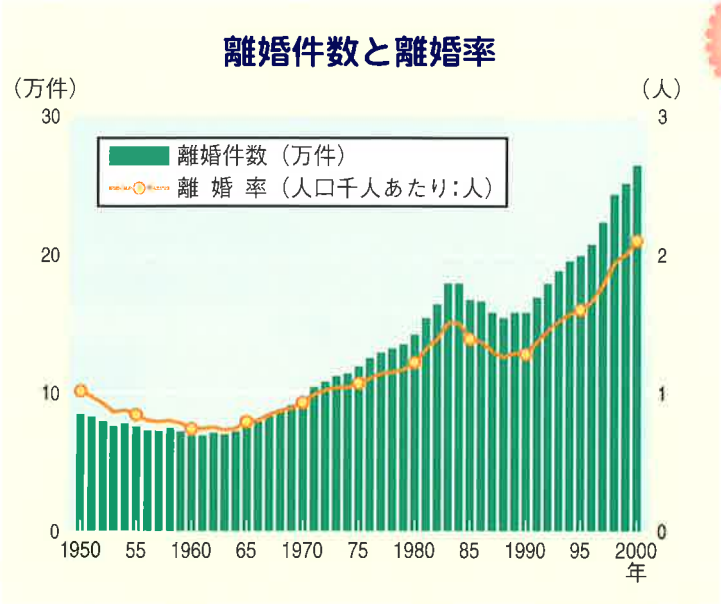
※資料：平成13年度男女共同参画白書

○女性が社会で活躍している今、女性の初婚年齢が上がるのは当然だと思う。（20代女性）

○「結婚適齢期」という考え方が薄れているのではないか。適齢期は人それぞれだと思う。（20代男性）

○20代30代は結婚・出産・子育てにいちばんいい時期だと思う。早く結婚するのが理想かな。（50代女性）

離婚する夫婦が増えている？



※資料：平成13年度国民生活白書

○核家族化が進み、周囲のバックアップが得られないことが離婚率上昇の原因ではないか。（20代男性）

○個人の生き方の選択肢が増えたということ？でも、結婚はもっと重々しく考えられてもいいと思う。（20代女性）

○10代20代の離婚が多いと聞いた。「若い人は我慢できない」というより、今の時代が自由になったということかな。（20代女性）

○いろんな理由で離婚する人がいる。離婚した周りの人をみていると、自分の生き方を自分で決定できる人が

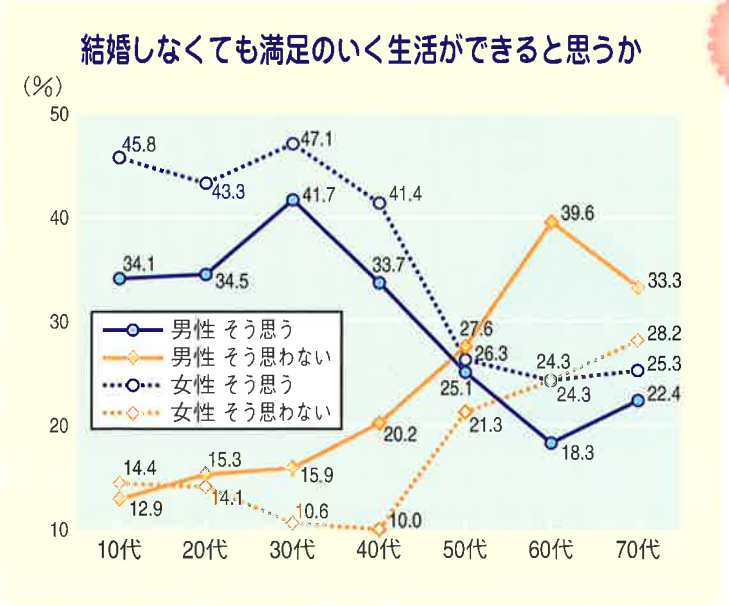
多いと感じる。（50代女性）

○私は結婚したら、最後まで一緒にパートナーでいたいと思う。（20代男性）

○みんな自分本位になってきているのでは。（30代男性）

○離婚をよく耳にするけど、離婚率が昔と比べてもそんなに大きくは変わっていないのは意外。（20代女性）

結婚は人生のすべて？



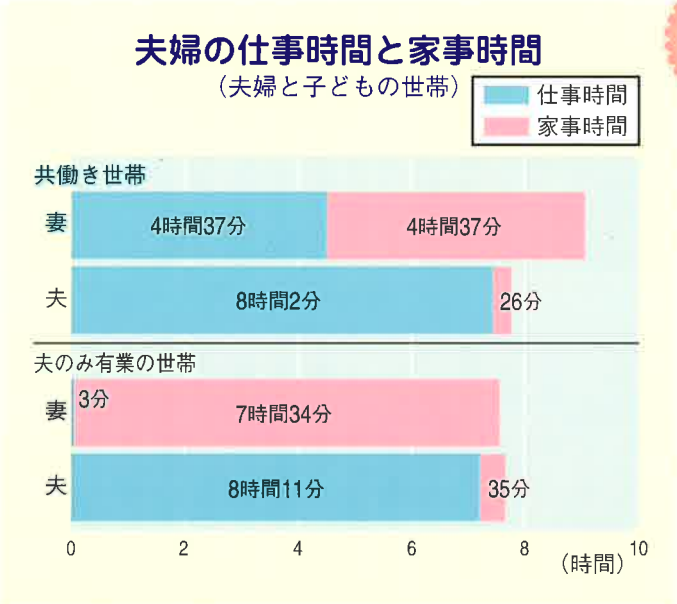
※資料：平成13年度国民生活白書

○仕事なり、趣味なり、一生懸命に生涯をかけられるものがあるなら、結婚しなくても満足のいく生活ができると思う。（20代女性）

○10代から30代の人は結婚以外の何に満足を求めているのだろう？未婚か既婚かによっても随分回答は違うのでは。（30代女性）

○若いときは現状に満足していればあえて結婚しなくてもよいと考えてしまう。しかし、年齢を重ねたり、結婚したりすると、結婚が満足のいくものを得るに値するという認識が深くなるのではないか。（20代男性）

男性は仕事、女性は家事が当然？



※資料：平成13年度社会生活基本調査

○夫の家事時間があまりにも短い。共働きの夫よりも専業主婦の夫の方が家事時間が長いことにびっくり。（20代女性）

○共働きであろうとなかろうと、家事を積極的に行っている男性が少ないのは、男性が忙しいから？（20代男性）

○家事についてはやれる方がやるというのが現実かな。家事の完全な分担は難しいと思う。（20代女性）

○今の世の中では、男性が責任のある仕事をしていて給料も高い。女性はパートの人も多い。この結果は、そのような現状の表れなのでは。（50代女性）

○男性は一人暮らしだったらきっともっと家事をやっていると思う。結婚したらしなくなってしまうのは、家事は女性の仕事という、昔からの流れがあるからだと思う。（20代男性）

○専業主婦も職業を持つ夫も、仕事の内容や、有給か無給かの違いだけで、結局働いている時間はほぼ一緒だと考えてよいと思う。（50代女性）

○なんだか結婚する前から結婚が嫌になってしまうようなデータ。家事も仕事も毎日の時間の大部分を占めることだから、夫婦どちらかがどちらかをやるのではなくて、バランスよくやっていきたいけど…。現実はそうもいかないのかな。（20代女性）

見ていただいたデータから、昨今の結婚の実情、状況を垣間見ることができたのではないでしょうか。

時代の変化・社会の変化とともに、結婚観・結婚のスタイルは変化しています。変化を受け入れる意見、変化を否定しないまでも、結婚をもっと大事に考えたいという意見、さまざまな意見をいただきました。

次頁では、何人かの方々に、結婚について語っていただきました。

20代　男性

今まで結婚について考えたことはあまりないです。今、学生だからかもしれませんが。

僕の中では、男が働くものだと思っているので、社会に出て働いてからでないと結婚はできません。でも早いほうがいいです。子どものことを考えると、できるなら、30歳になる前に結婚したいです。

もし結婚するとなれば、恋愛結婚が理想なのですが…。お見合いでは僕は無理です。何でって言われても難しい。なんとなくです。

20代　女性

学生時代までは、好きな人がいても結婚したいとは思わなかった。煩わしいお互いの家のことなんかに巻き込まれたくなくて、たとえ一緒に暮らしても、結婚は嫌だ、子どもは面倒だからいらないと思っていた。しかし、本当に好きで、生理的に嫌な部分が少なくて（こういうところはかなり重要だと思う）、一生嫌いになれなさそうな大切に思う人に出会ってから、ずっとこの人と生きていくために、結婚したい、と思えるようになった。今でも、お互いの家族のゴタゴタには巻き込まれたくないという思いはあるけど、そういうのが結婚したくない理由には今はならない。結婚したくない理由より、結婚したい理由のほうがとっても大きい。

結婚したら、結婚が生きていく中で大きな節目になると思うが、結婚しない人生ももちろんあると思う。自分で選んだ生き方に後悔せずに生きることが大切だと思う。そういう生き方がしたい。

私は仕事じゃなくてもいいから、家庭以外での自分が参加できるものを持ちたいと思う。専業主婦もいい。家の中のことは二人で協力してやりたい。子どもについては、子どもがいる人生もいいかなというふうに思えるようになった。

なんか楽しい、なんか幸せだと思える結婚生活にしたい。

20代　女性

私は結婚と聞いて、以前は「幸せになれる！」「ずっと好きな人と一緒にいられる」などと考えていました。しかし、少ない恋愛から、「結婚って難しい？」「結婚は人生の墓場っていうのは本当？」と最近は思っています。「結婚＝幸せ」と思うのも、「結婚は人生の墓場」と思うのも人それぞれだと思うし、それだけでは語れるものではないのかもしれません。

私は結婚に夢を持つことができません。今は学生ですが、卒業後はバリバリと働きたいです。結婚は「バリバリがんばる」などとは言われないですよね。私は自分の夢である仕事に就くことができて、自分ひとりで生活することができたら、多分結婚は考えないだろうし、しないと思います。

20代　男性

人生においての一つの区切り（出発点）と責任、愛し合っている二人にとっての一緒にいる証として、結婚はとても重要なものだと思う。

婚姻届を出さずに、事実婚という形で一緒に生活をすることで納得するカップルならば、それも有りだと思う。

しかし、あくまでも自分の場合は、これからの人生で、お互いに結婚しているのだなという認識をはっきりと持っていくために、結婚する（婚姻届を出す）ということはとても意義のあることだと思う。

また、古臭いことを言っているように聞こえるかもしれないが、結婚するということは、自分に新しく家族ができて、今まで属していた「家族」から、自分とパートナーで持つ「家庭」へと生活のポジションが変わることでもあると思う。そうなると、様々な意味で責任を持った行動を取らなくてはいけない。責任のある行動をするには、やはりけじめを持たなくてはならないと思う。そのためにも、結婚というプロセスは必要なのだと思う。逆にいうと、いくら深く愛し合っていても、結婚という行動は、責任のある状態になるまで保留しておくべきだと思う。私自身、現在、責任のある立場ではない。それ故、しばらくは相手に待っていただかなくてはならない。

「気持ちがあればいい」

確かに、気持ちを持つということは最も大事なことだと思う。しかし、気持ちだけでは駄目だと思う。お互いの人生をより深くするために、けじめや認識というものが、生きていく上で、私は非常に重要だと考える。

私にとっての結婚とは、人生における「区切り（出発点）、責任、証」である。

わたし結婚いろいろ考え

30代　女性（結婚8年目、子ども3人、元看護師）

夫とはお見合いで結婚しました。お互い初めての見合いで意気投合し、結婚の話もトントン拍子で進みました。結婚となると、両親と同居するのか、別居するのかという事が問題になってきます。夫の両親は、「同居」「ふたりの家を建てる」「アパートに住む」のどれでもいいと言ってくださいました。結婚前から夫の両親とは仲良くさせてもらい、この両親とならうまくやっていけそうと思い、同居することに決めました。

看護師の仕事について、夫も両親も応援してくれました。夫がよく理解してくれていたお陰で、洗濯などは自然に時間が空いている方がする、できる方がするというリズムになってきました。

一人目の子どもが生まれてからも仕事を続けました。仕事上、夜勤もある中、母（姑）も長男の面倒をみてくれ、本当に助かっていました。

二人目が生まれ、仕事を続けるのは無理だと思い、仕事を辞めて家庭に入りました。私が仕事をしていたときは、「仕事を辞めて家庭に入ってくれ」と言ったことがなかった夫でしたが、私が仕事を辞めたあと、「やっぱり家にいてくれたらいいもんだなー」と言っていたのを思い出します。

でも、三世代同居って本当に恵まれていると私は思うのです。子どもたちだって、おじいちゃんおばあちゃんに愛情をいっぱいもらって、いろんなことを教えてもらって、私も同じようにいろんなことを与えてもらっている、とってもすばらしい環境だと感じています。

30代　男性（結婚7年目、子ども3人）

結婚前と結婚後では結婚観が変わった。妻と結婚する前は、お互い都合のよいときに会い、楽しいのは当然。でも、結婚すれば、お互いがどんな状況であっても一緒にいるので、二人が協調しあって生活していかないとうまくいかない。

子どもが生まれることも本当に嬉しいことではあったが、子どもを育てていくのは大変だと感じる。でも、この大変さが自分自身をより成長させてくれるのだと思う。

長い結婚生活、楽しいこと、辛いこと、苦しいことがある中で、それを二人で力を合わせ、どう乗り越えていくかだと思う。それを乗り越えていって、本当の夫婦になっていくのではないだろうか。そうやって、老いても一緒にいられるのが夫婦だと思う。

30代　女性（結婚6年目）

夫と私が出会ったのは、ワーキングホリデーでオーストラリアに行ったとき。日本に帰ってきてからも、彼とは遠距離でしばらく付き合っていましたが、彼が富山に来ることになり、結婚することになりました。

私は「結婚しても独身の頃と変わらない生活がしたい、海外にも出かけいろんなことを吸収したい」という思いがありました。彼は「自分自身をまず充実させ、夫婦二人でやりたいこともたくさんある」という考えでした。そうなると、子どもは今は考えられない・・ということで、今に至っています。

でも、子どもは全くいらないというわけではなく、二人の間に子どもを授かれば、彼も私もとてもかわいがると思います。しかし、現在の日本の社会を考えると、子育ては難しいと考えてしまうし、子どもを育てていく自信がいまひとつ持てないというのが本音です。

現在は、彼は自営業で、私は会社員。彼のほうが時間的に余裕があるため、家事一切は彼が引き受けてくれています。

彼の仕事が軌道に乗れば、またお互いの役割も違ってくるかもしれませんが、そのときその状況で、助け合っていくのが夫婦であり、二人が協力してこそ二倍三倍の力になっていくと思います。お互いがそうやって高めあっていけたら最高ですよね。

60代　女性（結婚46年目）

わたしが結婚した頃は、親との同居は当たり前で、別居するなら別れなさいと言われました。

夫が自営業をはじめ、一緒に仕事をしてきました。夫の母が倒れてからは、仕事をしながら母の介護をしました。とても忙しく、子どもとあまり接することができませんでしたが、子どもたちは文句も言わず、家の中のことをよくしてくれました。

最近、家族揃って夫の古希の祝いをし、夫に感謝のことばをもらったときには、とてもうれしかったです。これまで大変でしたが、夫に支えられ、ここまでやってこられたと思っています。

現在未婚の方の結婚に対するイメージ、既婚の方の実際の生活についてお聞きしました。

独身の男性は結婚について、「相手を幸せにしなければならない」と、大きな責任を感じているようです。

実際に結婚しているみなさんには、それぞれの夫婦にそれぞれの生活、結婚に対する考え方があるように感じました。

皆さんはどう思われましたか？

ありーて編集員がおじゃまします

高岡地区広域圏事務組合

～であい・ふれ愛事業「あいたいんバレンタイン」～

今回は、２月１日に行われた、高岡地区広域圏事務組合・愛のバースデープロジェクト実行委員会主催「あいたいんバレンタイン」におじゃましました。

このイベントは、であい・ふれ愛事業として実施されており、昨年に引き続き今回が２回目の開催となります。高岡広域圏では晩婚化の傾向が進んでいるということで、地域の若者の社会意識を高め、男女の出会いの場を提供することを趣旨として実施されています。前回・今回ともにチケットは完売。会場はたくさんの人で盛り上がっていました。

真剣な表情で当日の最終チェックをしている実行委員の皆さん

今回のイベント開催にあたり、「愛のバースデープロジェクト実行委員会」実行委員長の田畑さんにお話を伺いました。

「このイベントは、若者の未婚化や晩婚化、人口の減少などの問題を考え、実施されています。しかし、わたしたち実行委員としては、男女の出会いの場を提供し、それをいかに楽しく盛り上げるかということを考えて企画をしています。ですから、皆さんには気楽に参加していただきたいと思っています。もちろんこのイベントをきっかけとして、仲間の輪・交流の輪ができたり、結婚するするカップルができたりするとうれしいです。」

実行委員は、高岡市・氷見市・小矢部市・福岡町の20代・30代の男女28名。当日は司会役や天使役などに扮し、会場を盛り上げておられました。

参加された方は、出会いのきっかけのひとつとして気軽に参加しておられるようでしたが、少し踏み込んで、皆さんの結婚に対する考えをお聞きしました。

〔参加者の声〕

●社会人となり、出会いの機会も少なくなったので、きっかけとなればいいなと思い、参加しました。特に結婚は意識していませんが、まずはこのイベントで友達をつくりたいと思います。（男性）

●母に教えてもらって参加しました。早く子どもがほしいので、できるだけ早く結婚したいです。（女性）

●結婚は30歳までにはしたいと思っています。相手は家庭的な人がいいです。性格が合うかどうかが最大のポイントです。（男性）

●友人に誘われて参加しました。結婚は相手があってのことなので、別に何歳までにしなくてはならないということは考えていません。結婚しても、仕事は続けていきたいと思います。（女性）

皆さん結婚については漠然と考えてはいるものの、強く意識して考えてはいないようでした。まずは出会いから、という意見が目立ちました。

セピア色の写真から

二宮春子さん

二宮さんは大正5年、岐阜県に6人兄弟の長女として生まれました。現在86歳。第一印象はとても暖かく、そばにいるだけで、何も話さなくてもまわりの人をほっとさせる雰囲気の持ち主です。

現在、元気な仲間とともに、定塚校下の「ばっちゃま劇団」の団長として活躍しておられます。

毎日を楽しく忙しく過ごしておられる二宮さんですが、このような活動を始めたのは70歳を過ぎてからだそうです。それまではあまり外に出ることがなかったという二宮さん。どのような人生を送ってこられたのかお聞きしました。

二宮さんの父親は茶道・華道の先生で、大変しつけが厳しく、母親はそんな父親に決して口答えをしませんでした。

あるとき、二宮さんがいとこの男性と並んで歩いていたことを知ったお父さんは、そのことを厳しくたしなめたそうです。「今でもそのことは忘れられません。」と二宮さんは語ります。

「そういう時代でしたから、私の結婚についても親同士が決めました。形としてはお見合い結婚になるのでしょうか。」

ご両親が「結婚するまでにお互いに一度も顔を合わせないというのもかわいそうだ」と言い、結婚する直前に夫となる人に自宅に来てもらい、初めて顔がわかったそうです。

「私も母同様に父には口答えのできない立場でしたから、素直に『この人ならいいかな』と思って嫁ぎました。」

昭和11年に結婚し、四男二女の母となりました。夫はデパート勤務でしたが、戦時中にその仕事もなくなり、軍属として奈良県で生活をしました。

戦後は、芋飴の原料を卸売りする仕事を夫が知人と始めたのですが、その知人にだまされて、自宅を売り払うことになってしまいます。「そのときが今までの中でいちばんつらいときでした。」と二宮さんは語ります。そんなとき、夫の友人が高岡にいたことがきっかけで、高岡に引越し、現在に至ります。

「女は仕事に出るものではない」と教えられてきた二宮さんでしたが、市内の会社で事務をすることになり、3年間働きました。しかし、家から外に出たのは結局その3年間だけでした。

昭和62年、夫が77歳で他界。二宮さんが70歳のときでした。

「夫は晩年公民館でゲートボールの活動をしていたので、私も公民館に時々足を運ぶことがありました。」

「女は外に出るものではない」という教えを守り、家庭を守ってきた二宮さんでしたが、ひとり暮らしとなったこのころから、公民館に出かけたり、講演会に行ったりと、少しずつ外に出ることが多くなりました。

公民館に通っているうちに「ばっちゃま劇団」を知り、活動に参加するようになりました。このころできたての劇団は、指人形での劇や紙芝居をしていました。手仕事の好きな二宮さんは、人形を作ったり絵を描いたりすることに自然に溶け込んで、劇団の仲間と顔を合わせることがとても大きな楽しみとなっていったそうです。今では自分達自身で演じるお芝居がほとんどだということです。

「ばっちゃま劇団」はほのぼのとした演技が魅力で、富山県内のみならず、県外へも出張公演するほどの人気ぶりです。そのような活動が市や県などからも広く認められ、数々の賞を受賞されています。

プロの俳優の川津祐介さんや森公美子さんなどが劇団を訪問され、二宮さんと一緒にお芝居の話に花を咲かせたこともありました。

後列真ん中が二宮さん

劇団の仲間と台本の読み合わせに余念のない二宮さん。「引っ込み思案の私がこの年になって、人前でこんなことがまだできるんですから幸せですよね。手を動かし、足を動かし、声を出して健康でいられるのも、互いに支えあう仲間がいるからです。見に来てくれた人が笑ってくれると、私たちはとってもうれしいのです。芝居は私にとって生きがいです。」とおっしゃる、はつらつとした二宮さんは、人生の素晴らしい先輩だと感じました。

こんにちは 女性行政室です

市民企画講座の企画を募集します

様々な角度から男女平等・共同参画を考える講座の企画を、市民の皆さんから募集します。

より多くのみなさんに、男女平等推進プランについての関心と理解を深めていただき、共に推進していくことを目的に実施します。

講座内容● 週1回(約2時間)、連続3〜4回程度の講座とします。男女平等・共同参画について関心と理解を深めようとするテーマのものとします。

実施期間● 平成15年8月〜平成16年3月

応募資格● 市内に住むか勤務する個人、または団体・グループで、講座の実施・運営に携わることができることを条件とします。

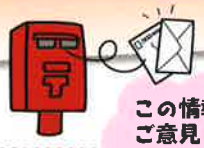
応募方法● 所定の申込書(女性行政室、支所・公民館など市の関係機関の窓口に配置)に、団体・グループの名称および代表者の住所、氏名、電話番号、活動内容、講座の概要、テーマ、日程、講師を記載して女性行政室へ提出してください。

提出期限● 平成15年5月30日㈮

※講師への謝礼、保育に関する経費のほか、通信費、事務経費等は、予算の範囲内で市が負担するものとします。

※企画者には、講師との交渉(依頼、事務連絡等)、受講生の募集(募集チラシの原稿作成等)、講座の実施(会場設営、受付、進行、アンケート、記録等)に携わっていただきます。

※お申込み・お問合せは、女性行政室(TEL 20-1262)へ。



この情報誌に対するご意見・ご感想をお待ちしています。

編集後記

今回の結婚をテーマにした特集はいかがでしたか。未婚・既婚に関わらず、結婚についてたくさんの方の意見をお聞きすることができ、独身のわたしが結婚について考えるよいきっかけとなりました。人それぞれの考え、体験談など、編集員になっていろいろ考える機会に恵まれました。今回に限らず、いろいろな方々にお話を聞き、交流の輪を広げていきたいと心から思います。 ●遠藤真紀子

最近、テレビの『幸せ咲いた』というドラマにはまっています。結婚相談所にやってくる人たちの本音をどうやって聞き取り、その人たちの思いを結婚という形にする苦労と言うか努力を見せられて、「そうだよね」と妙にうなずく毎日が続いてます。ありふれた事柄にも関わらず、奥の深さに、人間ってすばらしいなと思わずにはいられません。他人を認めることの大切さを痛感しています。結婚って、自分らしさを失わずにいられるかどうかということがキーポイントだと思いました。 ●中川　悦子

「結婚したらパートでもいいから、仕事はしていたい。でも、主に家計を支えるのは夫の収入で。」女24歳、未婚の5人が集まれば、現実的な本音が出てくる、出てくる。結婚が複雑になってきて、気持ちだけじゃ結婚もできないかもしれないけど、いざ困難にぶつかったときに、それを乗り越えていける力になるのは、相手を思う気持ちだと思う。いちばん大切なことを現実の中で忘れないようにしたい。●篠原　エリ

ある新聞の結婚についての連載を読みました。結婚という形を嫌い、限りなく結婚に近づきながら結婚を選ばず、事実婚という形をとるカップルや、相手がいなくても子どもだけが欲しいという女性が増えているという記事を目にしました。さまざまな考え方があると思いますが、「自分がいちばんかわいい」「自分の幸せのため」という考えがあまりにも横行していないだろうかという思いになります。今回取材させていただいた方々は、結婚に対して責任を感じていたり、夫婦がお互い協調していくことが大事だと考えている方が多かったように感じました。 ●朴木満裕美

発行／高岡市企画調整部女性行政室
〒933-8601　高岡市広小路7-50
電話／ 0766-20-1262　FAX／0766-20-1646
MAIL／ gender@office.city.takaoka.toyama.jp

※平成15年4月より、女性行政室は『男女平等・国際交流課』に変わります。電話番号・メールアドレスは変わりません。